

福知山市住民自治検討会議（第3回）報告

〔日 時〕平成29年11月14日（火）10：00～12：00

〔場 所〕市民交流プラザふくちやま3階 3-2会議室

〔出席者〕委員…11人、事務局…7人、傍聴者…4人

■議事

1 前回のふりかえり

事務局から説明

2 福知山市の地域組織（自治会）について

事務局より前回資料（3自治会資料）に基づき説明

【質疑・意見等】

- ・自治会長については、今のままの形態では負担が大きいため、自治会で担うべきところと、もっと広域にすべきところについて、また3町を参考にしつつ、旧市のまとまり方をどう考えるかを今後の議論につなげていきたい。
- ・まず自治会の機能がどうなっているのか、棚卸とまではいかないまでもそれを明らかにし、共有する必要がある。
- ・地域の中も、行政の中もまず見える化して無駄を無くすことが大事である。
- ・支所については、地域にとって何のための機能なのかがよく分からない。地域振興といっても、うまく関わり合うことができない。包括的な組織である地域協議会が行政と連携する窓口として支所が、もっと機能しないものか。
- ・夜久野には連合自治会はあるが、それは目的型コミュニティや地縁型コミュニティを包括的に考えるような仕組みではない。だから協議会ができた。自治会を含めて一緒になって活動を進めていく必要があると考えている。
- ・若い人に参加してもらうには別の組織との連携が重要となる場合もある。
- ・公民館の基本的な目的は社会教育だが、実際には地域のニーズや課題を踏まえ、現在でも地域における多様な機能を果たしていると考えている。
- ・地域公民館は地域住民の意識を高めるための学習の場としてがんばってくれている。公民館は非常に幅広い活動をされているので、その活動を雛形としてはどうか。
- ・地区ごとに風土が違う。実際に地域公民館単位で一緒にやるのは地域公民館の行事だけである。
- ・地区公民館と地域公民館で活動や機能が重なっているところもあるのではないか。
- ・地区公民館活動は自治会があるから成り立っている。そして、その地区公民館の協力で地域公民館の地域活動が成り立っている。
- ・予算の上では地域公民館は施設管理と講座の開催がメインである。地域の連携や活動を担っている地域公民館運営協議会の事務局を地域公民館が持っているが、

それは地区公民館から会費を得た、市とは別の会計で運営されている。

- ・公民館は単純に場所や建物としての拠点としては成り得るが、問題は「人」である。地域の人だけが出てくるのではなく、地域と行政がうまく連携できる人的配置は考えないといけない。
- ・全国的にみても地域にとって必要なのは「人の知恵」であり、お金ではない。
- ・自治会の活動や、地区公民館の分館は自分たちのお金でやっている。何か行政に指示などされるものであってはならないと考える。これは自決権であり、例えば他の自治会同士の連携などにしても、最終的にはそれぞれで考えるべきこと。
- ・今までの議論から、旧3町ではそれぞれ中学校単位でのまちなまとまりがあるがそれ以外の地域では、村や小学校区で差があり、地域特性も異なるということを確認した。
- ・似通った地域性や人口、高齢化率を持つような自治会をグループ分けして、それらごとに統一した視点で地域活動を把握するのはどうか。
- ・自治会長に各地域の問題点を把握するためのアンケートなどをこれまで実施したことがない。その地域で何をしているかなどをきくようなアンケートをとってみたいらどうか。
- ・また、市長と自治会長が話し合う機会があってもいいかもしれない。

⇒事務局がアンケートたたき台を作成し、自治会長運営委員連絡協議会と連携し実施する。

- ・これから必要となるアクションとして、考えられるのが以下3点である。

①中間支援組織について

全市的な新たな組織づくりをするときに、中間支援の組織や機能、仕組みは必要であると考え。具体的なサポート機能。それは別組織でも市の中にあってもいい。

②自治会と公民館の役割や機能の整理

旧市街地では自治会と公民館という地域のまとまりがある。しかしそれが限界にきているエリアもある。総合的なあり方の再編成が必要。公民館というシステムと自治会とのつながりを整理したうえで、連携やそのエリアの考え方について探る必要がある。

③できそうなところから順次支援する

全市的にまとめて並行的にやっていくというのは難しい。地域のまとまりがあることを優先し、意欲のある地域から進めていく方法もありえる。ただその場合、今ある地域差がさらに大きくなる可能性もある。

■次回の開催

日 時：12月19日（火）10時

場 所：市民交流プラザふくちやま 4-1

テーマ：地域の担い手について